

米CPI、約39年ぶりの高水準で 早期利上げ観測を後押し

ポイント① 米CPI、39年半ぶりの高水準

1月12日に発表された12月の米CPI（消費者物価指数）は、事前の市場予想通り、前年同月比で7.0%上昇し、39年半ぶりの高水準を記録しました。一方で、前月比では+0.5%と、ガソリン価格の下落を受け、11月の同+0.8%から減速する結果となりました。また、変動の大きいエネルギーと食品を除くコア指数では、前年同月比で+5.5%、前月比で+0.6%と、いずれも11月の水準を上回る伸びを見せています。

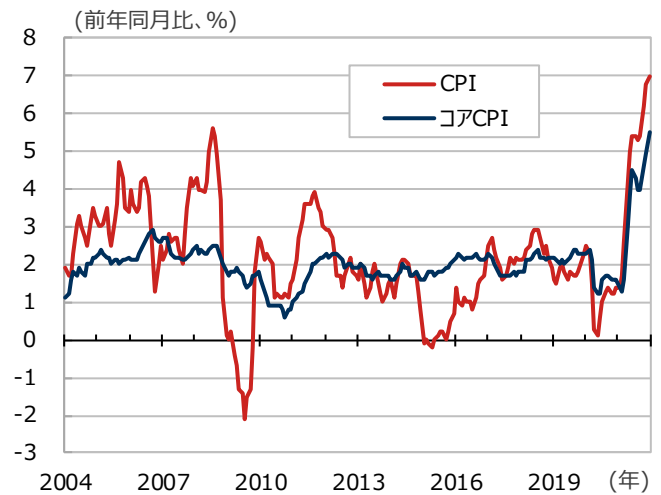
ポイント② 一部項目で前月比の伸びが鈍化

項目別では、エネルギーが前月比で0.4%低下したものの、帰属家賃や中古車などの多くの項目で、価格の上昇が続いています。一方で、食品や新車などの一部項目では、前月比ベースでの伸び率鈍化が確認でき、過度なインフレ圧力は徐々にピークアウトしつつあるという見方もできそうです。とはいえ、依然としてFRB（米連邦準備制度理事会）の当初想定よりも、足元の物価上昇は根強く、かつ広範に及んでいるほか、今月11日にパウエルFRB議長が「高インフレが定着しないよう手段を尽くす」姿勢を表明していることから、早期利上げに影響を及ぼす蓋然性は低いと考えられます。

ポイント③ CPI発表後、米長期金利は一時低下

12月のCPIは高水準となったものの、事前の市場予想と一致したことで、上振れリスクが警戒されていた市場では、持ち高調整の債券買いが入り、米10年債利回りは一時低下、米ドルは対円で下落する展開となりました。しかしその後、米10年債利回りは、FRB高官からタカ派寄りの発言があったことで上昇に転じ、概ね前日と同水準まで戻りました。

米消費者物価指数の推移



期間：2004年1月～2021年12月、月次
 (注) コアCPIはエネルギー、食品除く
 (出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

米10年債利回りと為替の推移



期間：2019年12月31日～2022年1月12日、日次
 (出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

**重要
イベント**

- 1月14日 米小売売上高、米鉱工業生産指数 (12月)
- 1月26日 米金融政策発表